

ダンス界の未来と J D S F の役割

広島県ダンススポーツ連盟理事

井上博文

J D S F 広島は井上と申します。

J D S F 広島について触れる前に、私ごとですが、私は大学でダンスに出会い、いわゆる学連に身を置いてダンスにいそしんでいました。大学を卒業した私は市役所に就職し、まもなく大学時代のパートナーと結婚、すぐに子どもも授かりダンスから離れました。

そして、下の子が高校に入り、子育ても落ち着いた頃から、17年間のブランクを経てダンス活動を再開。競技に出場する一方で、市役所内のダンス仲間と共に社交ダンス部（現在はダンススポーツ部）を立ち上げました。年に2回、春と秋に市の大きな体育館で「フレンドリーダンスパーティー」を開催し、サークルなどでダンスを楽しむ方々等の交流の場とするとともに、毎回「サークル対抗チームマッチ」や「演技発表」を行う中で、アマチュアダンス愛好家に発表の場を提供しています。お陰さまで、このパーティーは地域で定着し、毎回300人以上の参加をいただいております。先日、4月29日に開催した第34回パーティーでは、90歳を迎える江崎春子さんの「卒寿記念」演技発表のお相手を務めました。72歳からダンスを始め、90歳とは思えないほど足腰のしっかりした江崎さんのチャチャには会場から賞賛の拍手が沸き起こりました。（今回、J D S F 広島から私に「ダンスビュー」への記事原稿と、この手紙の依頼があったのは、そもそもこの江崎さんの「卒寿記念」演技発表が新聞の地方版に大きく取り上げられたことがきっかけでした。）

※HPがありますので、「福山市職・ダンススポーツ部」で検索してご覧になってください。

公民館でのサークル指導も含め、ダンス活動にいそしむ中で、J D S F 広島の創設に際して、参画するよう声をいただき、平成13年の創設以来、14年間理事を務めております。創設に際しては、準備段階でプロ組織との確執も含め、いろいろハードルがあったと聞きますが、私が声をかけていただいた時点では、既に皆さんの努力でハードルを越え、連盟のスタート時点からご一緒させていただいたというのが正しい表現と思っています。

J D S F 広島の役員は河野会長、石井副会長、宝木副会長を始め、昨年退任された吉本さんなど、本当にダンスに情熱を傾けておられる方が多く、献身的にダンス界の発展のために尽力しておられ、私の活動など、まだまだ足元にもおよびません。

それから、私が長年競技ダンスを続ける中で一番心を痛めたのは、プロ組織の分裂とD S C J 統一級からの離脱です。J D S F（日本ダンススポーツ連盟）が設立されプロアマ共存共栄の時代が始まると思った矢先、J C F が離れ、さらに昨年はJ D C も統一級から離脱… 懇意にしている先生も何人かあり、プロ組織との共存を信条とする私もさすがに悲しくなります。我々アマチュアはいったい、いくつの団体に選手登録しなければならないのか…

昨今、高齢化によるダンス人口の減少が大きな課題となっています。全国的なこの傾向は、我々の地方も同様で、このままではダンス界はどんどん先細っていくものと危機感を抱いております。プロにとっては、もっと死活問題かもしれませんね。

ダンスの普及に力を注ぎ、裾野を広げることは、J D S F の大きな使命だと思います。そのことが、プロ・アマを超えた日本のダンス界の発展に繋がるものと考えます。

ダンスを愛する人は、みんな仲良くありたいですね。

さあ、今日もレッツ・ダンス！